

○太田部昔話○

おじいさん

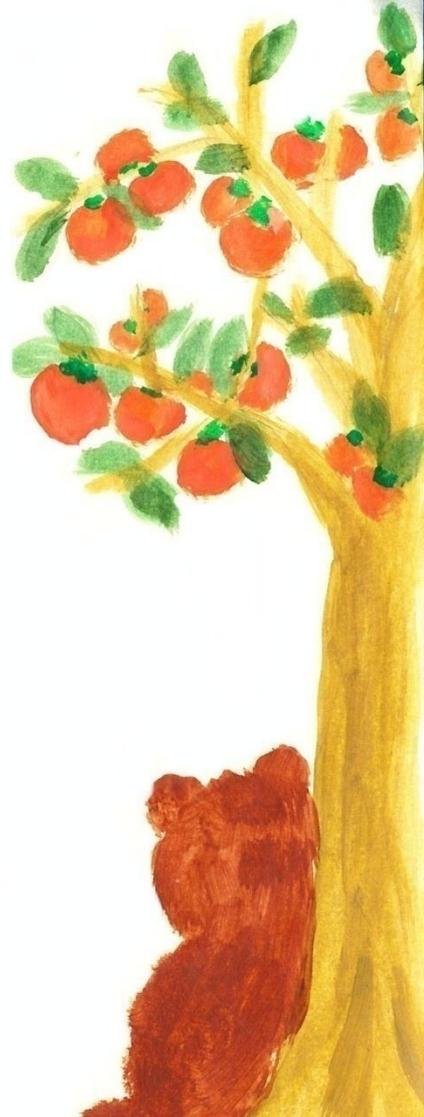
と

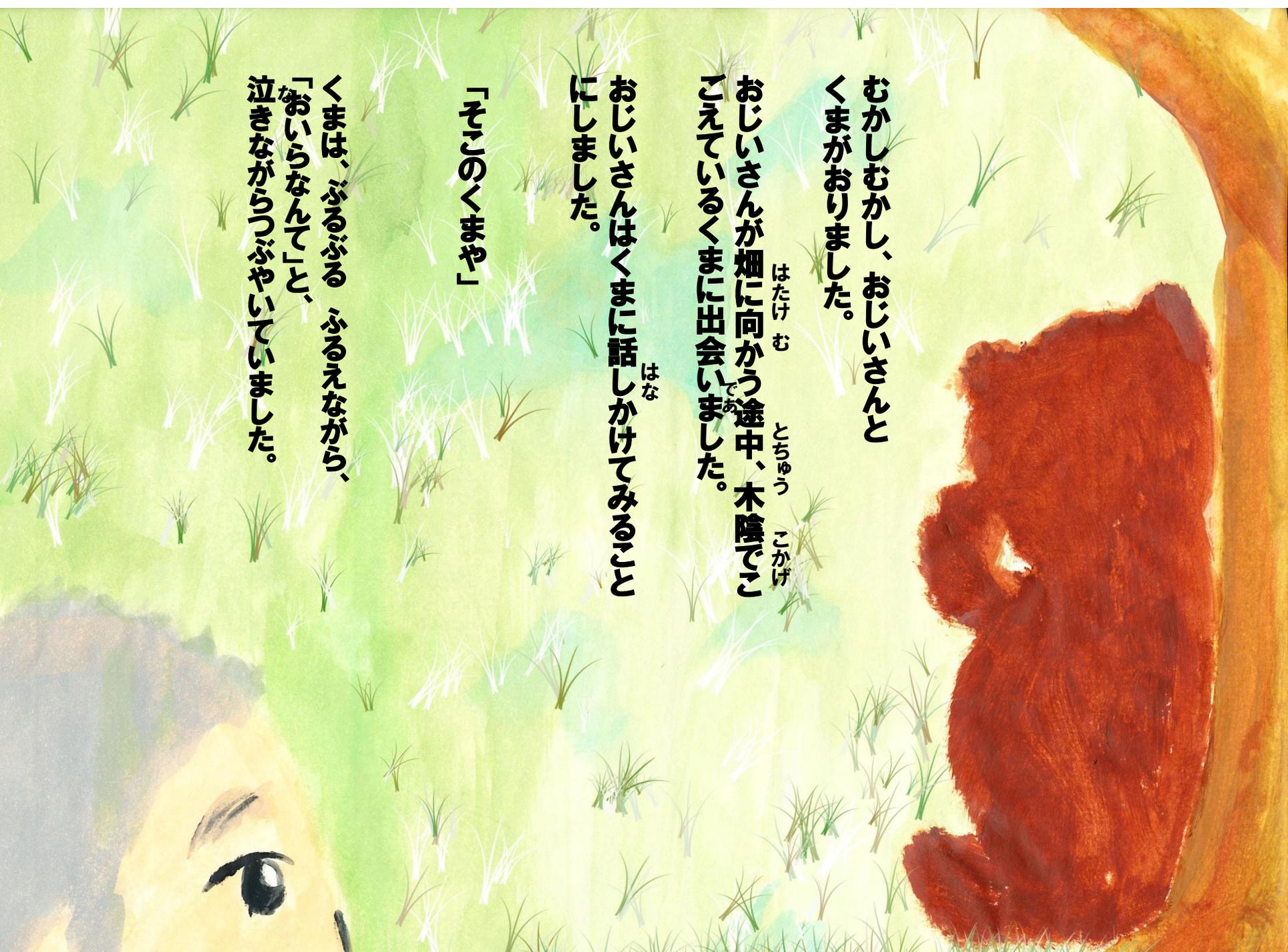
くま

太田部昔話

おじいさん  
と

くま





むかしむかし、おじいさんと  
くまがいました。

おじいさんが畑に向かう途中、木陰でこ  
こえているくまに出会いました。

おじいさんはくまに話しかけてみるにと  
にしました。

「きみのくまや」

くまは、~~びるびる~~びる ~~びるえながら~~、  
「おいらなんて」と、  
泣きながらしややいていました。



おじいさんは、  
くまのとなりですわり  
「どうしたんだい」と訊ねるとくま  
はこういいました。

にんげん ともだち

「おいら、ただ、人間と友達になり  
ただけなのに」

「なにもしてないのに石を投げつけ  
られたんだい」

おじいさんはうなずき、  
くまの気がすむまで話を聞いてや  
りました。

おじいさんは、く  
まにこういいまし  
た。

「人はのお、おまえさんと  
同じ臆病者なんだよ」  
「本当は、わしもその一  
人じゃ」  
「悪気はないんじゃ、許し  
ておくれ」

気がすんだかのようにくまは  
笑顔になりました。



おじいさんは「またな」と言い残すと  
畑仕事に戻っていきました。



数日すつじつが過ぎ、おじいさんは  
くまが、うしろから  
ついてくるのにき気がつく

「おーいくまちゃんやいっち  
へ来てくれんか」と呼びか  
けました。

くまはうれしいそうにおじ  
いさんのもとに行き、

おじいさんの畑はたけ仕事を  
てっだ

手伝ったかりして、くまと過  
ごす時間ながが長くなってきた

ました。

いま しんゆう よ

今では親友と呼べるなかに  
なりました。



ある昼さがり、  
おじいさんとくま  
ちゃんは  
木陰で昼食をとって  
ました。  
近くの畑には柿の木  
に実がなっていました。  
くまちゃんが「おい  
ら  
が取ってきてあげよ  
う」とい、柿の木の方  
に歩いて行きました。

柿かきの木きのそばそばに行いき、爪つめで柿かきをとって、  
柿かきを一口ひとくちた食べ、

「この柿かきおいしいよ」といい、おじいさんに柿かきを投げなげ  
ました。

おじいさんは「くまちゃんや枝えだが細ほそいから気きをつける  
んじゃよ」といったとたん

くまちゃんはからだを支たえきれなくなり、  
ころころころがりました。

「てへへ」

と笑わらうとおじいさんもつられて笑わらいました。



A watercolor illustration of a boy and a bear in a landscape. The boy is on the left, seen from the back, with dark hair and a blue shirt, his hands raised in a gesture of surprise or joy. The bear is on the right, brown with a smiling face, sitting on a brown path. The background features two large, rounded green hills under a pale yellow sky. The text is written vertically in the center of the scene.

陽<sup>ひ</sup>がくれて、  
おじいさんと  
くまちゃんは  
挨拶<sup>あいさつ</sup>を交<sup>か</sup>わし帰<sup>かえ</sup>って  
きました。



この日をさかひに  
すがた あらわ  
くまの姿が現れな  
くなりました。

おじいさんは「どう  
したのかの」  
おも  
と思いつつまでも、  
いつまでも、  
いつまでも  
くまちゃんがる日  
ひ  
を待ち続けて  
いたのでした。